

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立四日市商業高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○校訓である「至誠」の精神のもと、商業教育・普通教育を通じて知・徳・体の健全な成長を促し、地域と連携しながら専門性の高い社会人を輩出できる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○礼儀やマナーをしっかりと身につけた上で、生きて働く知識・技能を備えるとともに、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を持ち社会に貢献できる人材 ○様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題解決ができる能力を持ち、社会人として活躍できる人材
	ありたい 教職員像	○目指す学校像実現に向け、創意工夫しすべての事柄に前向きに取り組むとともに、生徒一人ひとりを大切に、地域や保護者と連携し、協働性をもって組織として力を十分に発揮できる職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>(生徒) 約50%の生徒が地元企業への就職を希望し約50%が上級学校への進学を希望している。就職では事務職に就くことを望む生徒が多い。安定した学習環境を望み、各種検定や資格取得、充実した部活動に期待する生徒が多い。</p> <p>(保護者) 学力の向上、挨拶やマナー等の社会性の向上を期待するとともに、希望進路の実現には強い関心がある。また、安心・安全の観点から学校からの情報発信の充実を望む声が多い。</p> <p>(企業) 商業関係のスキルはもとより、挨拶や人間関係構築などコミュニケーション能力を備えた人材の提供を望む声が多い。</p> <p>(地域) 地域社会の行事などへの生徒の参加、参画による連携や交流を通じて地域活性化への寄与が期待される。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>(家庭) 適切な連絡や学校からの情報提供、相談体制の充実</p> <p>(中学校) 卒業生による説明会への参加等を通じて実際の高校生活にかかわる情報の提供</p> <p>(企業) 就職後のアフターフォローと生徒情報の提供</p> <p>(大学等) 高校からの継続した連携、大学の紹介等の機会の設定</p> <p>(地域社会) 開かれた学校づくり、地域との連携や協働活動、情報共有機会の増加</p>		<p>(家庭) 学校行事や PTA 活動への積極的参加。学校教育への理解と支援及び確実な連絡体制</p> <p>(中学校) 適切な進路指導、キャリア教育の実践。生徒についての緊密な情報交換</p> <p>(企業) 積極的な求人、インターンシップ等への理解・協力</p> <p>(大学等) 卒業生の受け入れ、講師派遣や高校生への直接指導など高大連携、キャリア教育・授業改善への取組</p> <p>(地域社会) 通学等の安全確保や学校への様々な協力、支援</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校では既に観点別評価を実施しているが、評価の方法については今後も検討する余地を残している。高校においても、十分な検討をして評価を実施して欲しい。 ・ 就職や進学以外の進路（留学等）を希望している生徒に対して、もっと情報提供やアドバイスをしてもらいたい。 ・ 高校生活入門講座については、夏と秋に2回実施してもらえるとありがたい。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度から実施される新学習指導要領に向けて、学習内容の改善・充実が必要。基礎学力の底上げはもとより、企業や地域と連携した取り組みや商業の授業内容や活動内容の質の向上が求められる。 ・ 「人間教育（人づくり）」については、基本的な生活習慣を確立した上で、酒商の良き伝統を大切にしながら、質の高いビジネスマナーの習得を本校の武器にしていく。 ・ 部活動については、学業との両立および教員の過度な負担の軽減のバランスを考えながら強化に取り組む。 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領を年次進行で実施する中で、各教科で学習内容の検討や授業力向上の組織的な取り組みが必要。カリキュラムマネジメントを行う上で、カリキュラム委員会での積極的な議論が必要。 ・地域との連携や課題研究などの効果的な取り組みをさらに進めるとともに、ウェブサイトやメディアの活用等PR活動にも積極的に取り組み、本校の情報発信を一層進める必要がある。 ・職員の仕事の偏りや時間外労働の縮減に取り組むとともに、風通しの良い職場環境の構築を行い、職員の情報共有・コミュニケーション機会を増やす。
-----------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓である「至誠」の示す人間教育を大切にしながら、変化の激しい社会で求められる資質・能力を把握したうえで「本校の目指す生徒像」にある人材を育成していく。 ・学校の諸活動を通して生徒の自主性・主体性を向上させる取り組みを進めていく。 ・教員が主体的にカリキュラムマネジメントに基づき、授業改善、教育改善を行う。 ・「思考力」「判断力」「表現力」「課題発見・解決力」「専門性」「協働性」といった「今後の社会で生き抜く力」「社会に貢献する力」を授業、特別活動、部活動などを通して学校教育全体で育んでいく。 ・狭い範囲の人間関係に留まることなく「地域の大人」「他校の生徒」など「他者」との対話・交流を通じて積極的、主体的な人間性や課題発見・解決力を育む探究活動に取り組む。 ・部活動の強化と人間力向上のための部活動・特別活動とのバランスを考えて活動に取り組む。その状況下で、どのように教員の負担軽減を図るかを考慮していく。 ・GIGA スクール構想の下、タブレット端末を有効活用して多様な学びを進め、環境の変化や課題に的確に対応できる生徒を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な資格試験や大学入試、新学習指導要領への適切な対応を進める。特に観点別評価については、評価を実施しながらより良い評価につながるよう常に見直しを図る。 ・進学希望者が増加する中で、多様な進学方法に対応し、個に応じた進学体制づくりを行う。 ・授業改善・進路指導につなげることで「就職も進学も強い四商」「多様な進路」「地域貢献できる学校」を中学生とその保護者にPRし、生徒確保と地域における評価につなげる。 ・風紀、週番制度の活用など生徒の自主性・主体性を向上させることにより教員の負担軽減につなげる。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)教科会の活用、授業参観週間・公開授業の実施等により、授業力の向上を目指す。 【活動指標】 教科会の活用、授業参観・公開授業の実施・生徒アンケート実施 【成果指標】 公開授業延5日以上、生徒アンケートでの授業理解度80%以上	(1)授業公開(中学生と保護者対象)は5月7日 中学生アンケート結果 四商の事がよく分かった 98.1% 授業公開は5日間実施、生徒アンケート 授業満足度90%以上	◎
キャリア教育と探究活動の充実	(1)商業科独自に探究活動検討委員会を設置し、課題研究の学習内容を検討する。また知的財産教育も実施していく。 【活動指標】 探究活動検討委員会を年3回開催し、特に2年生の11月以降の探究活動について教科会へ具体案を提示する。 【成果指標】 2年生の課題研究で、1回以上外部機関と連携した探	(1)2年生の課題研究で 探究活動委員会を2回 行い、みえ創業チャレンジスクールを実施、専門家からの助言をもらい近	

	究活動を実施する。みえ創業チャレンジスクール事業に参加し、ワークショップを取り入れた探究活動を実施する。1年生に知的財産教育を1回以上実施する。	鉄百貨店への改善提案を行う。知的財産教育は各学年1回講演会を実施し、興味・必要性がそれぞれ10%上昇した	
	(2)生徒一人ひとりの進路実現に向けて具体的な指導・助言を行う。 【活動指標】各学年の進路指導計画に基づき、進路実現100%を目指す。 【成果指標】年間で3年生7回・2年生3回・1年生2回の進路講話を実施 (3)部活動・生徒会活動の充実と部活動を通じた人づくりを行う。 【活動指標】部活動・生徒会活動を通じて生徒の主体性の向上を図る。 【成果指標】東海大会出場15クラブ以上、全国大会出場10クラブ以上、学校生活アンケートで「部活動への取り組みが熱心になった」割合が85%以上。生徒が主体的に活動する生徒会活動。	(2)進路実現ほぼ100% 進路通信14回発行 進路講話3年7回 2年3回1年1回実施 (3)東海大会出場15クラブ、全国大会出場13クラブ、部活動への取組82.1% 生徒会役員を主体に生徒の声を集めて行事に取り組んだ。生徒会でスマホ使用のルール作成	
人づくりの「深化」	(1)風紀週番制度を社会に出るためのトレーニングととらえ、活動に丁寧に取り組み、生徒一人一人の責任感、協調性を養う。あいさつの励行、遅刻者数減少の取り組み、校外において登下校指導(年間20日各5ヶ所)を通じ登下校時のマナー向上を図る。 【成果指標】当番忘れによるやり直し率8%以下、学校生活アンケートで基本的な生活習慣が身についた90%以上、挨拶など礼儀が身についた97%以上、遅刻率0.2%以下	(1)やり直し率11.6%前年比1.5%減 基本的な生活習慣93.6% 挨拶・礼儀97.6% 遅刻率0.47% 登下校指導は計画通り実施 自転車事故20件 ルール・マナー指導に取り組む	

改善課題

- ・今年度よりPTA総会の日に合わせて、中学生と保護者対象の授業公開を実施した。商業の授業や部活動の様子もよくわかると好評であったので、今後も続けていく。11月に授業公開を5日間実施しているが、コロナ禍の影響もあり見学者が少なく外部からのアドバイスや指摘を得られにくい現状である。授業公開の実施方法も工夫が必要である。
- ・通学中の自転車事故が多く、ルールやマナーと指導とともにヘルメット着用などの措置が必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)計画的な教職員研修の実施 【活動指標】職員対象の人権研修を年間2回以上、SCによる教育相談研修を1回以上、保健部による応急救護処置等の研修会を1回以上実施	(1)教職員人権研修は、3回実施、SCによる教育相談研修1回、保健部研修会1回実施	

魅力化アップと情報提供による信頼の構築	<p>(1) 課題研究で、商業高校の魅力が伝わる体験講座や PR 動画などを作成し高校生活入門講座の充実を図る。生徒満足度をもとに外部へ提供する情報内容の見直しを進め、情報発信の充実を図る。コミュニケーションツールとしての Google Classroom の活用を一層推進する。</p> <p>【活動指標】ポスターは年 1 回、チラシは年 2 回発行する。学習活動を中心とした学校案内の充実を図る。</p>	<p>(1) 課題研究に依頼しポスター 1 回、チラシ 2 回作成、制服紹介動画作成 学校案内やホームページも中学生に分かりやすくするために内容を見直した。</p>	◎
人権教育・特別支援教育の充実	<p>(1) 人権教育を充実し、命を大切にすることを教育を行う。</p> <p>【活動指標】年間 8 回以上の人権教育推進委員会の開催、各学年が各学期に 1 回以上人権 HR や講演会等を実施</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの状況にあわせ職員間の連携を密にし、情報共有を図り、生徒にとって安心安全な環境を整える。特別支援教育委員会や教科担当者会議などを通じて、生徒の状況把握・情報交換・情報共有に努め、合理的な配慮を行う。</p> <p>【活動指標】保健通信を月 1 回(年 12 回)発行、特別支援教育委員会を年間 5 回以上、教科担当者会議も随時実施し、生徒の状況に応じ個別の支援計画を立てる。</p>	<p>(1) 人権教育推進委員会を 7 回実施、各学年とも学期に 1 回以上人権 LHR や講演会を実施</p> <p>(2) 保健通信 11 回発行 特別支援教育委員会を 5 回実施、生徒状況に応じて教科担当者会議も複数回実施</p>	
働きやすい職場環境づくり	<p>(1) 総勤務時間の縮減に向け年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。</p> <p>【活動指標】設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 90%以上 放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 95%以上</p> <p>【成果指標】時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0 人 時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0 人 1 人当たりの月平均時間外在校等時間 30 時間以下 1 人当たりの年間休暇取得日数 10 日以上</p> <p>(2) 不祥事根絶のためコンプライアンス研修を学期に 1 回以上実施し、学校信頼向上委員会を定期的開催するなど、職員のコミュニケーションの機会を増やし、働きやすい環境をつくる。</p>	<p>(1) 定時退校できた職員 95%、休養日を実施できた部活動 95%、60 分以内に終了した会議 100% 年 360 時間を超える職員 5 人 45 時間越えは延べ 49 人 月平均時間外 24.3 時間 年間休暇取得日数 17.9 日</p> <p>(2) 校長が研修を主催し学期毎に 4 回コンプライアンス研修を実施、学校信頼向上委員会で不祥事根絶対策を話し合った。</p>	◎
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修においてグループワークを実施するなど計画した教職員研修は予定通りに実施できたが、実施回数でなく常にコンプライアンスを意識する働きかけが必要である。 ・タブレット端末の普及が進む中 GIGA スクールサポーターをより活用し、全職員が授業における情報機器の活用方法を習得して、ICT を取り入れながら授業改善を進める必要がある。 ・時間外労働の削減を図る取り組みをしているが、結果につなげていない。 			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・ 酒商での礼儀やマナー教育は、大切であるのでこれからも引き続き指導して欲しい。・ 酒商生としての自覚を持ってもらう事も大切である。・ 校則は、今の時代や生徒の自主性を考慮して内容を決めていくべきである。厳しい校則を緩めることは簡単であるが、その逆は難しい。校則については、酒商として大事にしたいところは残していくのがよい。・ 事故を減らすために自転車の運転マナー指導は大切であり、ヘルメット着用を促して安全対策を実施して欲しい。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 今年度より観点別評価を実施した中で課題となる点を見つけ、改善をしていくと同時に授業方法も見直し、「指導と評価の一体化」を一層図っていく。・ 授業アンケートの結果だけでなく、授業公開の方法、対象、日数等を見直し、多くの人に授業を見てもらえる環境を整え、外部からの助言や意見を聞き授業改善を一層進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 一部の教員への過剰な業務量を減らすため、分掌・学年等の人数や役割分担の再考を行う。職員が互いに声を掛け合い、繁忙期には業務を分けたり、手助けできる職場環境を構築する。・ 様々な理由で学校に登校しづらい生徒が増加している状況の中、普段からいじめや人間関係のトラブル等について常にアンテナを高くし、学年会、教育相談委員会、特別支援教育委員会、人権教育推進委員会等、それぞれの立場で情報共有を常に行い、適切な支援を実施する必要がある。